

(案)

平成 28 年 月 日

仙台市長 奥山 恵美子 様

仙台市環境影響評価審査会
会長 持田 灯

雨宮キャンパス跡地利用計画環境影響評価方法書について（答申）

平成 28 年 4 月 1 日付 H28 環環環第 104 号で諮問のありました「雨宮キャンパス跡地利用計画環境影響評価方法書について（諮問第 50 号）」に関し、環境の保全及び創造の見地からの意見は下記のとおりです。

記

1 全体事項

(1) 本事業による影響を予測・評価する際には、隣接地に計画されている病院施設及び住宅施設の整備事業による影響を考慮するとともに、これら事業者との調整に努め、可能な限り複合的な影響の低減に配慮した事業計画を検討するよう求めるべきである。

(2) 本事業を進めるにあたっては、現状の雨宮キャンパスの緑化状況並びに「仙台市みどりの基本計画」における本計画地の位置づけを踏まえ、可能な限り既存樹木を保全・活用するよう求めるべきである。

また、病院施設及び住宅施設においても、可能な限りの配慮がなされるよう各事業者との調整に努めるよう求めるべきである。

以上を踏まえた具体的な緑化計画について、環境影響評価準備書に記載するよう求めるべきである。

2 個別事項

(大気環境)

(1) 既に周辺道路で交通渋滞の発生が見られ、本事業による交通負荷によりさらなる大気環境への影響が懸念されることから、適切な交通対策を検討するとともに、交通渋滞の発生頻度が特に高い市道愛宕上杉通 1 号線において、環境保全上配慮が必要な学校に対する影響を把握するための調査・予測地点の追加を検討するよう求めるべきである。

(水環境)

(2) 本事業の実施に伴い計画地内の雨水流出係数が増加することにより、近隣河川の水質汚濁や豪雨等による冠水被害の発生につながる恐れがあることから、適切な雨水流出抑制対策を検討し、その具体的な内容を環境影響評価準備書に記載するよう求めるべきである。

(動物)

- (3) 現状の雨宮キャンパスの緑地には、鳥類が移動の中継地とする等、動物が生息している可能性が高いことから、本事業の実施に伴う動物への影響を適切に把握するための環境影響評価項目を選定するよう求めるべきである。

(景観、自然との触れ合いの場)

- (4) 現状の雨宮キャンパスは、市街地における緑豊かな景観並びに貴重な自然との触れ合いの場として、地域住民に親しまれていることから、同キャンパスを調査・予測地点とするよう求めるべきである。